

2 市立稲毛高校・附属中学校

※表中の「満足」の割合は、アンケート調査結果の「とても満足している」と「やや満足している」を合わせたものである。

※表中の「重視」の割合は、アンケート調査結果の「とても重視した」と「やや重視した」を合わせたものである。

※アンケート調査結果の()内の数値は、平成22年度に行った中間まとめの時の数値である。

※表中のページ番号は、別冊「資料編」の参照ページを表している。

※考察は、「研究会」の中で出された意見を基本としている。

No	項目	成果	課題
1	全体としての改革の成果	<p>アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「総合的に判断すると附属中学校に満足している」という設問に、生徒の93%(85%) p.32・保護者の97%(97%) p.36、卒業生のうち内進生の87%・外進生の81%が「満足」 p.38と回答している。 ○「中学特別教室棟や高校の施設設備を使うことができる」という設問に、内進生の87%(80%) p.32・その保護者の92%(90%) p.36が「満足」と回答している。 <p>聞き取り調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外の語学研修受入れ校において、日本文化をリサーチした結果を生徒が発表し、極めて高い評価を得た。 p.27 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ※学校への満足度は高く、全体として改革は良好な成果を収めている。 ○内進生と外進生が、お互いに向上心をもち、学習活動を行っており、大学進学の実績も高い成果が上がっている。 ○教育熱心な職員のもと、質の高い授業が行われ、それに生徒が積極的に参加している。 ○校内の約25%の生徒が海外語学研修を経験している。また、真の国際人の育成に向け、英語力の育成だけでなく、社会人基礎力※の養成をメインにした取組が行なわれている。 	

※社会人基礎力: 「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱している。企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきた。

No	項目	成果	課題
2	真の国際人を育成する中高一貫教育	アンケート調査	聞き取り調査 ○現在、交流校が7校あるが、それらすべての学校との交流は、スタッフ面・資金面で不可能である。現在、3校のみと姉妹校交流しているが、今後、拡大が望まれる。p.27
		意見交換会	
		聞き取り調査	
		考察	
		<p>○「真の国際人の育成を目指して心と体の教育も充実している」ことに「満足」と回答した生徒が85%(73%) p.31・保護者が96%(90%) p.34と増加している。</p> <p>○「先進的な英語教育」へ「満足」と回答した生徒が93%(83%) p.31・保護者が98%(92%) p.35と高い割合を示している。</p> <p>○内進の卒業生は「先進的な英語教育」が最も稲毛高校の魅力であると回答している。p.38</p> <p>○専門性の高い学習が営まれており、直接、海外の大学に進学する生徒は多くはないが、国際系や海外留学に実績のある大学に進学し、海外へ出ていく卒業生は増加している。p.25</p> <p>○英語ディベートを学ぶ学校設定科目(エッセンシャルイングリッシュⅡ)の実施により、生徒は語学だけではなく、思考力や表現力の向上につながっている。p.27</p> <p>○海外語学研修(オーストラリア)に参加することで生徒の英語に対する見方が変わり、GTEC※の得点が上昇し、その後の英語力飛躍につながった。p.27</p> <p>○「第5回千葉県高校生英語ディベート大会」(平成25年11月・成田国際高校で開催)第1位 「第8回全国高校生英語ディベート大会in長野」(平成25年12月・松本大学で開催)第21位。p.27</p> <p>※「真の国際人を育成する中高一貫教育」という改革は良好な成果を上げている。</p> <p>○引き続き、Call教室※やネイティブ講師を活用した先進的な英語教育の充実を図るとともに、様々な体験活動を通じて、単なる知識やスキルだけではない「人格の育成を含めた教育」を行っている。</p> <p>○コミュニケーション能力の育成に努めてきた結果、自分の意見を持ちきちんと発言している生徒の姿を見ることができ、大きな成果を上げている。</p>	

※GTEC：Global Test of English Communication for Studentsの略称。中高生が入試に必要な英語力、さらに社会・留学先でも使える英語力を育むことを目的としている。英語を実際に使うことを重視した問題で、「読む、聞く、書く」の3技能を測定する。絶対評価なので、技能別英語力の伸長度がわかり、多くの中学校・高校で利用されている。

※Call教室：CallはComputer Assisted Language Learningの略語。学力の向上及び外国語の授業支援、語学の自学自習のため、PCやヘッドセットを備えた教室のこと。

No	項目	成果	課題
3	中高6年間の継続的な指導	<p data-bbox="392 439 424 645">アンケート調査</p> <p data-bbox="467 215 1082 842"> ○「6年間の継続的な学習指導と先取り教育」等に対して、「満足」と回答している生徒は85%(82%) p.31・保護者は93%(91%) p.35であり、中間まとめ調査時点に比べ増加している。 ○「高校の先生による専門的な指導を受ける」ことに「満足」と回答した生徒が79%(79%) p.31・保護者が84%(79%) p.35である。 ○「授業を工夫したり、補習を充実させたりして、生徒が理解できるよう努力している」という設問に対して「満足」と回答した生徒が84%(71%) p.32・保護者が84%(77%) p.35である。 ○中学入学時に「中高共同の活動」を重視した生徒は62%(53%) p.30であるが、実際に中高共同の学校行事や部活動、生徒会活動を経験した結果、満足は91%(78%) p.32と上昇している。 </p> <p data-bbox="392 1066 424 1218">聞き取り調査</p> <p data-bbox="467 891 1082 1384"> ○GTECは毎年7月に中学2年生以上の全生徒が受検しており、25年度、高校3年の内進生の平均スコアは594点（英検2級相当レベルは570点以上）であった。当初の目標は「高校2年までに英検2級に全員合格」を掲げていたが、学校として、現在、英検は個人受検でという位置づけにしていることもあり、当初の目標は達成できていると考えている。 p.27 ○内進生と外進生は、お互いが刺激しあい、高校の進路実績では改革前よりも伸びている。 p.28 </p> <p data-bbox="392 1648 424 1711">考察</p> <p data-bbox="467 1402 1409 1917"> ※中高6年間の継続的な指導は良好な効果を上げている。 ○6年間の継続的な学習指導や先取り教育、先進的な英語教育、高校の先生による専門的な指導などにより、生徒の学力向上が図られており、生徒・保護者の満足度は高く、中間まとめ時よりも更に上昇している。 ○教育熱心な職員の指導のもと、質の高い授業が行われ、それに生徒が積極的に参加しており、進路実績においても成果が上がっている。 ○内進生も外進生も、真の国際人を目指す教育目標のもと、互いに切磋琢磨し、充実した学生生活を過ごしており、その成果も上がっているが、ともすると「内進生重視」という見方をされてしまう場合があるため、今後、より一層の工夫が必要である。 </p>	<p data-bbox="1106 215 1137 488">聞き取り調査</p> <p data-bbox="1158 215 1409 730"> ○平成25年度から普通科の教育課程が統一されたことに伴い、内進生と外進生の学習進度の違いを考慮し、中高の教育内容全体を検討していくことが必要である。 p.27 </p>

No	項目	成果		課題
4	文武両道の伝統など	基本調査	○平成25年度附属中学校生徒240人中延べ232人の生徒が部活動に参加している。 p. 21	聞き取り調査 ○中学と高校の行事日程を組合せて計画することが難しい場合がある。 p. 28
		アンケート調査	○「高校生と共同の学校行事や部活動・生徒会活動が充実している」ことに「満足」と回答した生徒が91%(78%) p. 32・保護者が87%(76%) p. 35である。 ○外進生の卒業生は、市立稲毛高校の魅力や特色として「文武両道」と「先進的な英語教育」を挙げている。 p. 38	
		聞き取り調査	○内進生は高校入試がなく、継続して部活動ができるため、高校になり活躍している部活動も見られる。 p. 28 ○平成24年度は高校の野球部が県大会ベスト16、バドミントン部が県大会ベスト8、ダンスドリル部が全国大会に出場している。 p. 28 ○中学校の野球部やサッカー部の練習場所が課題となっていたが、24年度までは公営施設を借用して対応していた。平成28年度から、隣接する学校跡施設を附属中学校で活用することが決まっている。 p. 28 ○中間まとめにおける「中学3年生としての自覚の形成」の課題に対し、高校とは別に中学は、学年別に生徒会を組織して独自の活動を行っている。また、中学3年生については、学校評議会の中心メンバーとして、文化祭をはじめ各種校内行事の運営に積極的に関わることで、集団における統率力や中学最高学年としての自覚を育成している。 p. 28	
	考察	<p>※文武両道の伝統は引き継がれ、6年間のつながりを生かした中高共同の活動が充実している。</p> <p>○中学校から継続して部活動を実施することができ、高校生になり、その当該活動の中核を担う生徒も多い。</p> <p>○1月中旬から3月中旬まで中高の入試期間が続くため、その間、部活動が継続して活動できないといった短所が生じている。</p> <p>○多くの部活動が中高一緒に活動しており、中学生は高校生から大きな刺激を受けている。</p> <p>○部活動の活動場所が不足している課題については、近隣の施設や小学校跡施設の校庭や体育館を使用することで対応を図っている。</p>		

No	項目	成果	課題
5	教育ニーズの多様化への対応	<p>基調値</p> <p>○附属中学校における入学者選抜の倍率は、開設時以来、10倍を超えている。P. 20</p> <p>アンケート調査</p> <p>○受検に当たって「高校受検がなくそのまま稲毛高校へ進学できる」ことを「重視」した保護者が82%(84%) P. 33と減り、「真の国際人の育成」88%(86%) P. 33、「6年間の継続的な学習」94%(88%) P. 33、「先進的な英語教育」94%(87%) P. 33が上昇している。</p> <p>○入学後も「高校受検を意識せずに学習や諸活動に取り組むことができる」ことに対する満足度は、生徒で92%(94%) P. 31・保護者で94%(90%) P. 34となっている。</p> <p>○「生活に関する相談や指導が充実」の問いに対する満足度は生徒で69%(51%) P. 32・保護者で84%(69%) P. 36と、中間まとめ時より上昇している。</p> <p>意見交換会</p> <p>○附属中学校に入学を希望する児童は多いが、倍率が高く、入学しにくい状況がある。P. 26</p> <p>○「真の国際人の育成」という学校の特徴を理解した、本当に入学したいと思っている生徒が入学できると良い。P. 26</p> <p>聞き取り調査</p> <p>○特に英語と数学については、教科担当レベルでの個人指導を通年で実施している。また、高校生になってからも、中学の先生が成績不振者を対象に課外補習を実施している。P. 28</p> <p>○今年度から養護教諭が1人増員になり、中高3人体制になったため、従来のスクールカウンセラーに加えて相談体制が強化された。P. 28</p> <p>考察</p> <p>※教育ニーズの多様化の中、附属中学校の成果は受検生やその保護者に着実に伝わっており、公立中学校の新たな選択肢として定着している。</p> <p>○附属中学校へ進学を希望する児童は毎年多く、中間まとめに比べ、「真の国際人の育成」、「6年間の継続的な学習」、「先進的な英語教育」等の特色をよく理解して入学する生徒・保護者が増加している。また、進学後も附属中学校の特色に対する満足度は高い。</p> <p>○入学後の学力差や、メンタル面のケアに対しても、担任やスクールカウンセラーによる個別相談及び養護教諭の増員で対応している。</p>	<p>意見交換会</p> <p>○公立中等教育学校及び併設型中学校の入学者選抜については、学校教育法で学力検査を行わないことになっている。そのため適性検査を実施しているが、入学後の生徒の学力差が課題となっている。P. 26</p>

No	項目	成果	課題
6	小学校現場や地域へのアピールなど	<p>アンケート調査</p> <p>○保護者のうち、「受検に当たり附属中学校の情報を附属中学校（説明会及びホームページ）から知った」と回答した者が全体の71%[説明会64%+ホームページ7%] P.34と一番多い。なお、生徒は保護者から知ったと回答した者が一番多く、46%(44%) P.30となっている。</p> <p>意見交換会</p> <p>○文化祭で実施した三線演奏やエイサー等は、文化祭後も様々なところで披露し、好評を得ている。P.26</p> <p>聞き取り調査</p> <p>○小学校の児童・保護者向けには、学校説明会と学校見学会を7月と11月に実施している。小学校の教員に対しては、職員向け説明会で、学校の紹介と出願方法の説明をしている。P.28</p> <p>○千葉市教育研究会国際理解部会等、本校を参観したい希望があれば受け入れており、中学校職員の初任者研修でも授業を公開している。P.28</p> <p>○吹奏楽部やESS等の部活動は、近隣の小中学校との交流活動を行っている。P.28</p> <p>○中学1年生は「地域を知る活動の一環」として稲毛の浜の清掃活動を行っている。また、中学2年生は職場体験学習で、地域の各事業所に受け入れていただいている。P.28</p> <p>考察</p> <p>※改革の大きな成果を、より外部へ発信することが必要である。</p> <p>○中間まとめの課題を踏まえて、各種説明会・学校公開・近隣小中学校との交流活動等さまざまな方策がなされており、学校の特色が受検生やその保護者に伝わっている。また、今後、改革による生徒の大きな成果を、より外部へ発信することが必要である。</p> <p>○引き続き、同じ市立の学校として、附属中学校のことをもっと知り、交流を図ろうとする小学校側からの働きかけも必要である。</p>	<p>アンケート調査</p> <p>○保護者のうち、「受検に当たり附属中学校の情報を小学校の先生から知った」と回答した者が全体の1%(2%) P.34であり、生徒では2%(10%)と非常に少ない。P.30</p> <p>意見交換会</p> <p>○文化祭は高校の内容を見る良い機会であり、毎年7月に実施しているが、その頃は中学3年生が最後の総合体育大会前に当たってしまうため、見学に行きにくいという課題がある。P.26</p> <p>○国際教養科は普通科に勝るとも劣らない実績を残している。その進路路実績等をもっと強調して外部に伝えていく必要がある。P.26</p>

